

令和元年度
まちづくり活動
アシスト事業報告

地域で集まる・話す・考える・飲む
のむラブミーティング事業

野村地域
自治振興協議会
会長 大塚 晶司



といえる。

地域のつながりと関係人口の拡大

このミーティングでは地元の方々はもちろん、地域外から多数の参加を頂いた。野村の良さを客観的に見つめることにより、地元が気付いていなかった本来の、また活用すべき「地域性」を感じることができた。計十二回開催したミーティングでは地域住民の当事者意識の拡大、そして地域の発展に大きく寄与していただくと感じる関係人口の拡大が大きな収穫の一つであったと思う。今回の活動で得たものを今後も活用し、元気になっていく野村地域を情報発信していきたい。

PSミー

ティングの後にも必ず飲むラブミーティングの反省点や次回の内容など深夜までミーティングは続く。



ミーティングの後は必ず飲むラブミーティング

「とりあえず集まらんといいんことない」地域が疲弊している時こそ、つながりを大切に前に進んでいこうと始まったの



業種を問わない多くの参加者が集う

野村地域自治振興協議会は、執行部・交流部会・情報研修部会・資源施設部会からなる地域づくり団体で、「自分たちの地域は自分たちの手で」を基本理念に活動している。野村地域は西予市野村町の中心地であるが、人口減少が続く、若者不足、雇用問題など深刻化しているため、各部会が課題の抽出と打開についての取組みを行っている。その大きな転機となったのは、平成三十年の西日本豪雨災害。中心地は大きな被害を受け、当協議会の拠点施設も壊滅した。「負けんぞ野村」を合言葉に復興が進む中、野村の中に新たな絆、考え方が生まれる。

むラブミーティング」。多数の住民を巻き込んだミーティングが始まった。



愛を持って話し合う座談会

毎月一回開催となった「のむラブミーティング」、愛をもって話し合うテーマは様々で、乙亥大相撲や花火大会などのイベントをはじめ、福祉や高齢化などの問題、地域づくりやコミュニティづくり、中には地域特有の酒文化に関する話し合いなども開催された。参加者は商店を営む方、区長さん、農業経営者など地域づくりに興味のある方に多数集まっていた。特に後半は地元高校生にも参加をしていただき、地域と高校のつながりや、次世代の地域づくりリーダーの育成にもつながったと感じる。

ミーティングでは地元NPO法人に運営を委託し、テーマの目的を達成するための調整をいただいたことで、協議した内容が年度内の事業実施等につながった